

様式(細則 5-2)

令和6年2月13日

浜田市議会議長 笹田 卓 様

議員名 芦谷 英夫

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため(視察・研修)を(実施・受講)したので、その結果を報告します。

記

- | | |
|-------------|--|
| 1、日 時 | 令和6年2月11日(日) 14時～16時 |
| 2、研修内容 | 講演会「待ちに待ったアルツハイマー病の薬と認知症予防について」 |
| 3、研 修 先 | 大田市(サンレディー大田) |
| 4、調査経費 | 交通費 浜田駅⇒大田市駅(JR利用往復) 4,380円
タクシー代 1,660円
<u>駐車料</u> 400円 |
| | 計 6,440円 |
| 5、調査研究活動の概要 | 別紙のとおり |



講演会「待ちに待ったアルツハイマー病の薬と認知症予防について」

令和6年2月13日

- 1 日 時 令和6年2月11日（日）14時～16時
2 場 所 大田市（サンレディー大田）
3 演 題 「待ちに待ったアルツハイマー病の薬と認知症予防について」

順天堂大学客員教授 田平 武

4 概 要

- ① 田平武名誉教授は大田市の出身、アルツハイマーワクチンの開発者で認知症専門医でもありこの分野での第一人者、開発されたアルツハイマー病の薬「レケンビ」は、令和5年9月に承認された遺伝子組み換え薬品である。
- ② アルツハイマー認知症はアミロイドβというたんぱく質が固まり、脳に老人斑ができることから発症するもので、新薬レケンビは、老人斑に結合し除去する役の抗体をつくるため、2週間に1回1年ぐらい点滴を打ち続け、抗体ができるというものである。あと10～20年ほどかかるが、ワクチンの開発も進められている。
- ③ レケンビは高価な薬で1年分の薬代は286万円、検査代、診察代を含め年間300万円ほど、保険適用で2割負担年間60万円、状況により薬の量を減らすこともでき、その場合1年の薬代は144万円、診察費用160万円となり自己負担は1年32万円となる。
- ④ 認知症予防には予備能をいかすことで、これには認知、身体、心理的、社会的の4つがあり、認知・精神活動特に読み書きをよくすること、よく運動をすること、ストレスを解消し心を明るくもって生きる意味をもつこと、社会的交流をもつこと、この4つの予備能を生かすことが重要である。
- ⑤ カギを握るのは腸内細菌で、善玉の腸内細菌を育てるために脂っこい食事を避け、食物繊維をしっかり食べることであり、そのための食事は、玄米、豆類、イモ類、木の実、緑黄色野菜、果物、発酵食品、小魚、貝、卵、肉は鶏などである。
- ⑥ **（質問）** 認知症予防に睡眠は重要か（⇒昼寝は30分、睡眠薬は認知症を悪化させる）。糖尿病であるが、認知症は遺伝するか（⇒遺伝性アルツハイマーの例は少ない、40、50代発症は遺伝性、アミロイドβは糖を求める）。ワクチンは間に合うか（⇒老化の原因は認知症にあり4つの予備能で老化を遅らせる）。家族介護は虐待につながる怖れがあるが（⇒地域での相談する人、地域包括支援センターなどが機能すべき、これは社会問題である）。認知症予防、老化防止に働くことが大切であるが（⇒高齢者が働けるような社会システムが必要、働くことそして有償が重要）。認知症予防に心がけることは（⇒これまで述べたほか体を動かすこと、若い人との交流も大切）。

5 所 感

- ① 田平名誉教授は大田市の出身ということもあり、300部の資料を準備したが約370人と多くの人々が参加した。長久町文化協会、教育後援会、まちづくりセンターなどの主催によるもので、行政主体ではなく地域の取り組みであり参考としたい。
- ② レケンビの処方には浜田医療センターでもでき、認知症相談の地域包括支援センターを中心として、アルツハイマーや認知症の初期の人への受診の機会を確保する必要がある。
- ③ 浜田市は他市に比べ平均余命、平均自立期間は短く、介護認定率も高く、特定保健指導受診率も低く、健康への市民の意識がどうか、市民自ら健康を考える取り組みが必要である。

—以上—